

第十三期第2回大田区清掃・リサイクル協議会 議事録要旨

【開催日時】令和7年11月17日（月） 午後1時00分～4時20分

【会場】中央防波堤埋立処分場及び粗大ごみ・不燃ごみ処理施設等

【出席委員】

さかお 坂尾 優希	公募区民
まえぞの 前薙 耶須子	公募区民
ふかざわ 深澤 文子	公募区民
ほりえ 堀江 敏雄	大田区自治会連合会（鵜の木地区、調布地域）
こやま 小山 君子	大田区自治会連合会（蒲田東地区、蒲田地域）
むらかわ 村川 茂治	大田区消費者団体連絡協議会
いちかわ 市川 真弓	大田区生活協同組合連絡会
にし 西 義雄	大田区リサイクル事業協同組合
かさい 笠井 聰志	東京壟容器協同組合第2支部
いわした 岩下 充博	大田区商店街連合会
あいかわ 相川 英昭	大岡山北口商店街振興組合
たかやま 高山 雄一	区議会 まちづくり環境委員会
つばき 椿 しんいち	区議会 まちづくり環境委員会
かなや 金谷 洋平	大田区立小学校P.T.A連絡協議会

【欠席委員】

のぐち 野口 多加志	大田区自治会連合会（大森東地区、大森地域）
こが 古賀 宰	東京都環境衛生事業協同組合大田区支部
すがはら 菅原 康人	大田区廃棄物処理協同組合
ささき 佐々木 一博	（一社）大田工業連合会

（以上、敬称略）

【区側出席者】

資源環境部長、資源環境部副参事、大森清掃事務所長、蒲田清掃事務所長、ごみ減量推進課事業推進担当係長

【事務局】

ごみ減量推進課長、ごみ減量推進課事業推進担当

【次第】

- 1 開会
- 2 施設見学
- 3 次回協議会開催日程について
- 4 閉会

【配布資料】

資料1 第十三期大田区清掃・リサイクル協議会委員名簿

資料2 大田区清掃・リサイクル協議会設置要綱

資料3 第十三期 清掃・リサイクル協議会について

議事要旨

1 往路
(1) 開会の挨拶・資料確認
【ごみ減量推進課長】 只今より、第十三期第2回大田区・清掃リサイクル協議会を開催する。本日は中央防波堤埋立地ごみの処分場を見学いただく。本日は視察ではあるが、会議の運営については、後日HPにて公開させていただく。予めご了承いただきたい。
(2) 会長挨拶
【小山会長挨拶】
(3) 部長挨拶
【資源環境部長挨拶】
(4) 新規委員の委嘱 新規委員となった椿しんいち委員の委嘱を行った。
(5) 出席状況について 【ごみ減量推進課長】 本日の出席状況について報告する。 出席14名、欠席4名、合計18名のうち14名に参加いただいている。
（6）タイムスケジュール・見学先について
【ごみ減量推進課長】 見学の行程について説明を行った。

(7) 一般廃棄物処理基本計画（調整中）について

【ごみ減量推進課長】

「一般廃棄物処理基本計画」に関して、調整版とあるとおり、府内で最終決定したものではない。これから調整版の後に素案という形でまとめていく。この素案となつたものをパブリックコメントに付し、意見をいただいたものを適宜反映して、案として年明けにまとめ、その後決定するという段取りである。まだ調整中の段階で未決定部分も多いという前提でご覧いただきたい。

資料3左上から順番に説明させていただく。これまでの成果と実績とある。グラフが左上にあり、オレンジ色が既存の計画で定めているごみを減らす目標値である。青色が実際にごみ量の減ったグラフである。令和4年度の段階で既に目標を下回って、現在の6年度実績では、目標612gに対して569gと大幅に下回っている状況である。区の施策ももちろんあるが、区民・事業者のみなさまのご協力により、大幅減が実現できたと思っている。

その下、現状と課題という円グラフがある。こちらは可燃ごみの袋を開けたときに、どのようなものが入っているかということをグラフ化したものである。令和5年度に調査をした結果である。円グラフ真ん中部に緑色で適正分別69.3パーセントである。一方、オレンジ色で分別不適物29.6パーセントである。緑色は本来可燃ごみに入れていただきたいものが7割可燃ごみとして入っていた。一方で残りの3割は本来可燃ごみに入れていただきたくないものが可燃ごみの袋に入っていたということになる。それが約30パーセント入っていたということで、右に目を移していくと、30パーセントの内訳が書いてある。主に大きく二つ、プラスチックが15パーセント、紙類が14パーセント。まだ再資源化できる紙が入っていたということである。右側に書いているが、資源回収の推進ということで、プラスチックや紙類について引き続き回収強化することが課題であるということと、その下に生ごみの減量の推進とあるが、先ほどの円グラフ緑色の下の部分に生ごみ（うち食ロス10.4パーセント）である。こちら生ごみについては可燃で捨てていただきたいというところではあるが、うち食ロスとして例えば食べ残しや賞味期限が切れて袋ごとそのまま捨ててしまうなど、そのような食ロスが10.4パーセントある。こちらも今後もごみ減量に向けては非常に減量の余地の大きい部分であると考えている。

左側の一番下に計画指標と目標値とある。こちら現行の計画でもあるが、指標1、指標2と2段ある。指標1がごみと資源の総量、指標2がごみだけの総量であり、こちらを減らしていくという目標を定めている。令和6年度までの実績では、大幅に減ってきていているため、この減りを継続させるということに加えて、プラスチック、紙、食ロスをより一層強化していくということで、これまでの傾向の直線より更に一段高い目標を設定している。10年度の令和17年には、資源との総量で473g、今と比べて約100gそれぞれ減らしていくという高い目標値を設定している。

右側に移っていただくと、具体的な施策とある。青色が3R+Renewableの推進と

ということで、ごみをどんどん減らしていくという施策が青色である。緑色が適正処理の推進ということで、出されたごみについて適正に処理・処分していきましょうということである。オレンジ色が協働の推進ということで、子供たちへの環境教育の推進や地域のみなさまや事業者への働きかけなどを行うという施策となっている。一番右側に普及啓発とあるが、これらはすべての施策に共通しているため、共通施策として記載している。またDXについても、例えば手続きのオンライン化やタブレットを使った効率的な回収などDXの活用についても今後重要となってくるため、共通施策として掲げている。

最後に右下の重点施策という部分である。こちらは現行の計画でも重点施策というものがあるが、今の計画で掲げているのが2番と3番である。それに加えて今回の計画では、1番と4番から8番は新しく重点事業としてより幅広く目指していくということを掲げている。まず、1番の雑紙の部分であるが、先ほど円グラフでご覧いただいたが、可燃ごみの中にお菓子の箱や包装紙、紙袋などの紙類まだ使える資源となるような紙が多く含まれており、回収を強化したいというものになっている。4番は自然災害への対応である。大きな地震といった大規模自然災害はもちろん、先日の9月11日のような局所的な豪雨等にも迅速に対応できる体制をつくっていくということで設定させていただいた。5番目は清掃事業データの見える化である。清掃事業ではごみ量はもちろんだが、清掃車両の台数や、どのくらいのコストで回収しているかなど非常に数字で表しやすい行政分野であると考えている。どれだけごみが減っているのか、資源回収量を増やしていくのかといったデータを数字でみなさまに発信していくことによって、ご協力をいただくモチベーションを高めて参りたいと考えている。チーム大田でごみを減らしていくということを意図している。6番は外国人向け広報の強化である。計画の本体の詳細には記載予定であるが、非常に外国人が増えている状況である。外国人のみなさまがきちんと分別していただくということもごみ減量に大きく寄与するものであり、ごみ出しのトラブル防止に向けたルールについてもお伝えしていくことを重点事業として挙げている。最後の7番と8番がDXの部分である。まず手続きのオンライン化の推進である。こちらは大田区全体で進めていることではあるが、現在紙で行っている手続きをオンライン、デジタルを使ってやっていくことである。清掃の分野でも各種申請をいただく時に、紙で申請をいただくということが多くあるため、こちらをオンライン化・デジタル化していきたいと考えている。最後がデジタルを活用した収集体制の整備である。収集車両ももちろん、収集する人員が必要である。社会全体の人で不足もあり、人員を確保するということが非常に困難となっている。収集をやったことがない人が新しくやるときに、いかに効率的にその方に動いていただくかということが大事になる。また、限られた車両の中で、運営することにデジタルを活用していくということである。大田区では既にプラスチックの回収をしている車両にタブレットを全て載せてどこの集積所でどれくらいのごみをとったということを確認して、空いている車をごみの溜まっているところに回して効率的に運用するということをしている。これをプラスチックだけではなく

く、資源や可燃・不燃に括げていくということを意図して、このような重点事業とさせていただいている。

こちらが計画の概要版である。本編については、50 ページくらいのより詳細なものとなっている。こちらについては、12 月にパブリックコメントという形でみなさまに届けさせていただく。 説明は以上となるが、わかりづらい点やもう少し聞きたい点などがあれば質問等をお受けしたいと思うがいかがか。

何かあれば現地でも聞いていただければと思う。説明は一旦終わりとさせていただく。現地到着までしばらくお待ちいただきたい。

2 施設見学

中防合同庁舎着。

現地職員案内のもと、10 階会議室にて 30 分程度動画視聴を行った。

その後、10 分程度 10 階展望回廊からの眺望や中央防波堤埋立処分場の説明があった。

バスに戻った後、中央防波堤埋立処分場や粗大ごみ・不燃ごみ処理施設などの周辺施設をバスで移動しながら、現地職員の案内・説明があった。

3 復路

【小山会長】

これから区役所本庁舎に向かう。到着までの時間を使って委員のみなさまから感想などをお話をいただきたい。

（1）見学を終えての感想

【委員】

こういう機会をいただいたことで普段ごみを出して行政で処理しているが、その後どういう形で処理されているかというのを改めて認識することが出来た。いつまでも続くものではなく、限りある施設であるため、今まで以上に 3 R を意識して引き継ぎ取り組んでいきたいと思っている。

【委員】

ごみは分ければ資源というのを実感した次第である。家庭の中でも自分の足元から周りの人たちにつなげていきたいと思う。

【委員】

今日は何年かぶりに施設見学をさせていただいた。また新たな発見や技術が進歩していると思った。最後のプラごみがむき出しになっているところがあったが、あれも何年も前からあの状態で、変わらないのだと実感した。

【委員】

先ほど、会長が職員に質問された（浸出水が）地下水に交じっているかどうかという質問の答えがなかったが、あれは埋め立てということでおろしいか。先ほどの（浸出水を）貯めている池があったが、あそこにはごみが溶けていないが、下30mの部分はどうなっているか。あれだけ広い埋め立て地なので、海の方にも流れているんじゃないかと思った。先ほど海の方の環境もちゃんと調べているという回答があったので安心した。

もう一点は、食品ロスについて話があったためみなさんにお伺いしたいが、賞味期限切れの食品はどうされているか。例えば、一か月経ったものなどどうしているか。私は1か月くらいだったら味は変わらないし、食べられるものだと思っているので、捨てる必要はないと思っている。

それから大田区の方での防災食品も廃棄が相当出ると思う。クラッカー類も3年、4年経っていても食べられる。その辺の周知も大田区からしていただきたい。絶対に捨てるとはしないで、いざというときには食べられるということで、防災関係の自治体の人たちも食べられると言っているので、私も食べるようになっている。今後ともよろしくお願ひしたい。

【委員】

食ロスの話があったが、うちでも賞味期限は1か月を過ぎても食べている。消費期限については、ものによっては傷むので、よく見てから食べるようしている。今日は本当に貴重ななかなか見られないところを見られた。やはり最終処理の大変さというところが感じられた。いろんなものを分別して破碎して一部は燃やしたり、また利用したりと大変である。みなさま是非ごみを出される方は、ここまで来ていただきみて欲しいくらいである。これを伝えていきたいと思う。

【委員】

埋め立てのむき出しの部分について、昔はビニールのごみがそのまま捨てられていて、今は可燃ごみになって焼却してかさも減らして、昔よりも技術が進んで、ごみの量が減っているのだと実感した。それから子供たち、我々が昔育った時よりも環境意識が非常に高くなっているので、それをこういった取組みだととか、学校でもご紹介いただいている結果だと思っている。引き続きこういった取組みが大事だと実感した一日であった。

【資源環境部長】

プラスチックはずっと年月が経っても分解されないので、海のマイクロプラスチックもそうだが、今サーマルで焼却もしているが、プラスチックは基本的には資源で回収をしているので、その時々の行政の方針が変わったりしてみなさまにご負担をお掛けするが、よりよいSDGsを進めていくということで引き続きよろしくお願ひした

い。

【委員】

新海面処分場があと 50 年と言われているので、50 年後の子孫が困らないようにより一層分別や技術革新などが必要なのだと改めて感じた。

【資源環境部長】

処分場に持ち込む灰だが、多摩地域の二ツ塚処分場は、今ほとんど灰さえも出でていないということで、23 区の清掃一部事務組合の方でも焼却灰は元の量の 20 分の 1 になるが、それをセメントの原料にしたり、焼き固めて石にしたり、持っていくものとにかく少なくするということである。引き続き行政としても取り組んでいきたい。

【委員】

私どもの会社で 30 年から 40 年くらい前に埋め立てていただいた所を今日何十年ぶりかに見た。全く当時の周りの景色も違っていて、どこかわからなかった。あの中には私どもが回収して埋め立てたものが入っているのだと実感した。

【資源環境部長】

江東区側の下の部分は、昔のまだ全量焼却できていない頃の生ごみが入っているというのが、今になっている。引き続き見守っていただけたらと思う。

【委員】

今日は貴重な体験をさせていただき、非常に勉強になった。12 月 10 日に所属する団体の定例会があるため、今日の内容については、20 名以上の役員が集まるため、ごみの問題について更に徹底するようにプラごみの問題も伝えたい。

【資源環境部長】

昨年、この会ではプラを持って行っている施設をご覧いただいたが、環境分野は現場を見るのと見ないので大違いなので、是非まだご覧になっていない方には今日見たようなことをお伝えいただきながら、広めていただけるとありがたい。

【委員】

今、大人の社会見学・施設見学が流行っている。とにかく活きた勉強になると毎回感じている。社会科の授業など教育の方で、どんどん取り上げていただくようにどんどん教育の方と連携していくかないと浸透しないと感じている。今日ここに来た者はわかつたが、大田区民にわかつていただくには、子供を通じてというのも非常に大事だと思っている。

最後に「美しく生きてください」という言葉をいただいたことがあるが、「身も心

も」ということだったが、この清掃事業関係に関わらせていただくようになってから、「身も心も環境も」美しくありたいなど実感した。大田区を23区で一番美しい街にしましょう。

【資源環境部長】

S D G sの考え方でも環境というのは一番土台にあり、その上に経済・社会となっている。環境は我々が生きていくうえで外せないものになっている。教育委員会とともにどういった連携ができるかというのは非常に今考えているところである。実際、子供たちはタブレットを1人1台持っている。それをいかに今日のような情報をデジタル化して子供たちに配信をして、写真ではなくて、動画や声や音を聞けるような活きた環境学習につなげられるかということを今予算要求している。今、大田区の小中学生は約4万人いるため、そういう子供たちの力は本当に大きいと思っている。

【委員】

百聞は一見に如かずという言葉通りであった。先日テレビでオーストラリアのごみ問題の話があった。オーストラリアは非常に国土が広く、ごみに対しての意識がおおらかであるが、やはり日本の都市部はこういった狭小な土地であるため、知恵や工夫を磨いて実践してきたということを感じた。懸命に努力すれば、ノーベル賞候補や大谷選手のような方が現れるのではないか。先ほど、環境が大事という話があったが、環境は政治・経済だけではなく、人間性に非常に影響してくる。これからの大田区をきれいにしていっていただきたい。

【資源環境部長】

オーストラリアの話があったが、日本の廃棄物処理の技術やシステムは世界最高峰である。今日の場所や清掃工場に結構な頻度で外国からの要人が視察に来ている。日本の技術がパッケージで貢献できるのか。例えば上水道・下水道とか鉄道などにも海外の新幹線に日本のメーカーが出て行ったりしている。ああいったところで日本の廃棄物処理システムがいかに貢献できるかというところも、組織は小さいが、一部事務組合にある。

【委員】

京浜急行で大田区の7つの島を巡る旅という中に京浜島が入っていた。こういった修学旅行とか団体旅行とかをして、見るということをしていっていただければと思う。

【資源環境部長】

見られなくてもデジタルツール・QRコードなど映像で見られるようなことも今後いろいろ展開していきたい。

【委員】

実際に現場を見てごみをいかに減らさないといけないのかという危機迫る課題を改めて痛感した。大田区の区一日当たりのごみ総量がどのように決まっているかわからないが、是非減量に頑張っていただきたい。また、ごみを減らすにあたって、食ロスの話もあったが、食品を長持ちさせるためには、プラスチックの包装をいろいろしないといけない。リサイクルするにも輸送するコストやCO₂の排出量など他の問題もあるため、いろいろなことを考えながら、ごみを減らさないといけないというのはとても難しいが是非頑張っていただきたい。

また、埋立処分場とは話が違うが、今回海に影響が出ないように様々な配慮がされているということが実感できた。一方で街にもポイ捨てのごみなどが直接海に流れて行って影響がでてしまうと思う。先日、区内のボランティアに参加したが、たばこの吸い殻や駐車場のごみが捨てられているなどの問題もある。そういうこともできる限りご配慮いただければ幸いである。

【資源環境部長】

区のごみの推計というのも、いろいろな切り口があるが、23区で話をしていく、やはりごみを減らすのに後ろ向きの区、行政は日本全国にはどこもない。1gでも減らしたいということでやっている。何かいい案があれば、行政に知恵をいただきたい。

【副会長】

百聞は一見にしかずとはうまいことをいうなと思う。あと何十年だと言ってもなかなかぴんと来ないところがあると思う。

あの辺りの反対側に野鳥公園とか城南島のキャンプ場などがあるが、それを越えて向こうまで行くという機会がなかったため、今日はいい勉強になった。またみなさまと一緒に勉強していきたい。

(2) 部長挨拶**【ごみ減量推進課】**

最後に改めて資源環境部長からご挨拶申し上げたい。

【資源環境部長】

本日一日みなさまにはお礼申し上げる。お気づきの点が多々あったかと思う。引き続き皆様方のご協力をいただき、大田区はごみ減量を進めていきたい。分ければ資源、混ぜればごみ、この一言で進めていきたい。それでは、最後は小山会長にお願いしたい。

(3) 閉会

【小山会長】

私が感じたのは、この委員でないと今日のような所は見学することができないということである。小学校・中学校の生徒たちにもこういったところに来ていただいて、環境について勉強していただき、ごみ問題に取り組んでいくということを、小さい時からやっていただけたらありがたいと思う。

以上で閉会とさせていただく。事務局にお戻しする。

【ごみ減量推進課長】

次回、清掃・リサイクル協議会第三回目のご案内について、1月27日（火）の午前10時～正午に消費者生活センターでの開催を予定しているためご出席をお願いしたい。正式なご案内は書面で通知させていただく。事務連絡は以上である。